

中山間地域の活性化と公社事業

わが国農業、農村をめぐる状況はかつてない厳しい状況に直面している。ことに平野の周辺部から山間部にいたる中山間地域において、そのことは顕著である。

中山間地域は国土面積の約七割を占め、耕地面積、農家戸数、農家人口及び農業粗生産額では、全国の約四割を占めるなど農林業生産の場として、さらには国土、環境保全の面

でも重要かつ多様な役割を果している。

このような中山間地域において、現在、人口の減少、高齢化の進行などにより、活力の著しい低下がみられ、地域の活性化対策の早急な実施が望まれている。

そこで、今号では、都道府県農業公社が、与えられた機能を活かして、中山間地域の活性化に取り組んでいる事例を特集する。

新事業で農業生産法人を応援

意気軒昂に、明るく農業を实践

「有西部農場」

福島県農業開発公社（山口 充理事長）では、新規事業の農業生産法人出資育成事業を全国に先駆けて取り組んでいる。今回、この事業を担当している農地調整部斉藤喜次主査の案内で長沼町の現地取材した。

長沼町は、県のほぼ中央、郡山市の西南部に位置し、東西一六キロメートル、南北四キロメートル、面積六〇平方キロメートルの細長い町で「山間の小さな城下町」として知ら

れ、自然景観に恵まれ、史蹟も多く美しい町である。

長沼町産業課の円谷課長補佐と農業委員会の真船事務局長から町の農業の現況と農業生産法人出資育成事業について話をうかがった。

長沼町の農業は、従来、米中心であったが現在はキュウリ、ニラなどの生産が多くなっており、今後は野菜栽培に力を入れていこうとしている。交通の便もよく、郡山、須賀川



円谷課長補佐



真船事務局長



農業生産法人出資育成事業

福島県・長沼町

特集

1



柳沼孝政さん



西部農場の社屋

といった都市の近郊でもあり、弱電関連の農村工業の導入も進んでいるため、兼業農家が増加している。町としては、本格的に農業をやろうとしている意欲的な農家に法人化をすすめているということである。遊休地、荒廃地化する農地を守るために、担い手の育成が急務であるが、流動化は所有権、利用権によるものではなく、農作業受委託が主流のことである。

町の農業振興計画では約一〇〇〇ヘクタールをカバーするカントリーエレベータの設置を予定している。また、個々の農家で機械投資が過剰になる傾向があるため、第三セクターの機械公社を設立し、農作業の受託組織を整備することも考えている。

新事業の取り組みについては「県公社から農業生産法人出資育成事業の説明を受けて、当町としては、農業生産法人である有限会社西部農場の育成を考えた。この法人の経営方針の確かさと堅実な運営ぶりから推進することに決めました」と、西部農場を事業の対象法人としたいきさつを話してください。

長沼町の西部、江花地区にある有限会社西部農場の事務所代表者の柳沼孝政さんから農場の概要や今後の抱負などをお聞きした。

西部農場は、設立が昭和六十三年三月、社員三名。主な経営状況は、所有農地水田〇・九ヘクタール、借入農地一・七ヘクタール。農作業の受託は水稲の生産管理四八ヘクタールである（この四八ヘクタールは地区の水田全体の約五〇パーセントに当たる）。なお、今回の農業生産法人出資育成事業により、県公社は農地〇・九ヘクタール（七〇〇万円）を平成

六年度と七年度の二カ年で出資することになっている。また、この出資分の持分譲渡計画では、法人構成員に一〇年分割譲渡する予定である。

当法人は、三戸で実働四名の構成員のほか臨時作業員二名を雇って作業をしている。主な機械装備は、トラクタ二台（四八馬力と七〇馬力）、コンバイン二台（四条刈、五条刈）、田植機二台、乾燥調整機（四〇ヘクタール規模に対応）などである。

稲作の今後の展望について柳沼代表は、「自由化などの影響もあり、米の余剰状況となるだろうし、価格も当然下がると考えざるをえません。これからはまずコストダウンが一番の課題となるでしょう。私は一俵で六〇〇〇円のコストダウンを目指しています。一万円のコシヒカリは決して夢ではありません。転作については、現在、小作地で大豆を作っています。野菜も長沼町ではキュウリ、ニラが主産地になっていますが、ハウス栽培は手間ひまがかかってなかなか難しい。私としては作目は限定しないが、加工して出荷できるものと考えていきたい」と意気軒昂である。

また、県公社事業については、「県公社の事業はいろいろ利用させていただいています。たいへんお世話になっており、感謝をします」と語ってくれた。

「取材の方がこられると農業、農村の未来は暗い、そんな中での農家はたいへんでしょ——みたいな方をされるんですが、これはやめてほしいですね。そんなことをいわれ続けると、ますます嫁さんがきてくれなくなりそうですよ。私としては、いま農業は厳し



豊かに穂った西部農場の水田

いが、農家はそれなりに頑張っている、などという同情はされたくないんです。そんないわれ方をされると、自分たちが惨めになってくるんですよ。確かに農業は厳しい現実の中にはあるが、農村、農家は決して暗くうち沈んでなんかないのですよ。事実、私たちは明るく楽しく農業をやっています」と、柳沼さんは自信に満ちた笑顔で話をしてくれましたが、たいへん印象に残っている。